

2. 養蜂の現状と養蜂等振興強化推進事業における対応状況



(1) 蜜蜂の飼育動向

- 蜜蜂の飼育戸数は、平成30年以降増加傾向で推移。蜂群数は、近年横ばいで推移していたものの、令和5年以降、微減（平成25年の増加は、平成24年の法改正により、届出義務を業として蜜蜂の飼育を行う者以外の蜜蜂の飼育を行う者にも拡大したことによるもの）。
- 令和6年の蜜蜂の飼育戸数は12,061戸、蜂群数は23万6千群（令和6年1月1日時点の調査）。

蜜蜂飼育戸数、蜂群数

（単位：戸、千群、群／戸、千群）

区 分	H24年	H25年	H26年	H27年	H28年	H29年	H30年	R元年	R2年	R3年	R4年	R5年	R6年
飼育戸数	5,934	8,312	9,306	9,567	9,452	9,395	9,578	9,782	10,021	10,529	11,276	11,416	12,061
10群未満戸数	3,286	5,167	6,076	6,325	6,351	6,275	6,473	6,705	6,952	7,387	7,988	8,110	8,635
10群以上戸数	2,648	3,145	3,230	3,242	3,101	3,120	3,105	3,077	3,069	3,142	3,288	3,306	3,426
蜂群数	184	204	210	213	212	213	213	215	213	224	242	237	236
平均蜂群数	31.1	24.5	22.5	22.3	22.4	22.8	22.2	22.0	21.3	21.3	21.5	20.8	19.6
（参考）花粉交配用 蜜蜂蜂群数	132	116	96	78	66	73	86	84	95	104	77	77	

出典：畜産振興課調べ（各都道府県からの聞き取り）

注1：飼養戸数、蜂群数、平均蜂群数は1月1日時点の数を集計した値であるが、花粉交配用蜜蜂蜂群数は年間で花粉交配に供した蜜蜂の群数である。

注2：1蜂群とは、女王蜂1匹と約2万匹の働き蜂で構成された巣箱1箱を指す。

蜜蜂飼育戸数等の上位10県（令和6年1月1日現在）

区 分	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位	10位	計
飼育戸数	長野	千葉	静岡	広島	鹿児島	埼玉	神奈川	岐阜	岡山	愛知	全国
戸	599	511	478	477	441	430	423	410	374	372	12,061
比率（％）	5.0	4.2	4.0	4.0	3.7	3.6	3.5	3.4	3.1	3.1	100
蜂群数	沖縄	長野	千葉	熊本	鹿児島	和歌山	福岡	埼玉	広島	岐阜	全国
千群	22.7	17.8	13.8	13.6	12.4	11.7	9.7	7.3	6.7	6.1	236
比率（％）	9.6	7.5	5.8	5.8	5.2	5.0	4.1	3.1	2.8	2.6	100

出典：畜産振興課調べ（各都道府県からの聞き取り）

(2) 蜂蜜の需給

- 蜂蜜の国内生産量は、令和5年は微増し約2千6百トン。
- 生産上位5県で総生産量の約4割を生産。
- 令和5年の国内消費量は約4万5千トンであり、自給率は約6%。
- 令和5年の蜜源植物の面積は、約81万ヘクタール。

蜂蜜の生産量、輸入量及び消費量

(単位：トン、%)

区 分	H27年	H28年	H29年	H30年	R元年	R2年	R3年	R4年	R5年
生産量	2,865	2,754	2,827	2,826	2,911	2,929	2,779	2,549	2,636
輸入量	36,222	48,445	42,821	44,521	44,788	49,348	47,132	47,276	41,924
うち 中国	26,411	35,466	29,818	31,512	30,518	33,821	30,887	30,782	27,929
比率	72.9	73.2	69.6	70.8	68.1	68.5	65.5	65.1	66.6
輸出量	29	33	21	18	10	18	33	20	21
消費量	39,058	51,166	45,627	47,329	47,689	52,259	49,844	49,805	44,539
自給率	7.3	5.4	6.2	6.0	6.1	5.6	5.5	5.1	5.9

出典：貿易統計(輸入量、輸出量)、
畜産振興課調べ(各都道府県からの聞き取り)

蜜源植物の面積

(単位：千ヘクタール)

区 分	H27年	H28年	H29年	H30年	R元年	R2年	R3年	R4年	R5年
みかん	34.9	31.9	35.5	35.6	35.7	34.9	30.8	31.3	29.5
れんげ	8.8	8.4	6.6	4.2	4.2	3.7	3.0	2.7	2.6
アカシア	6.2	5.0	6.7	5.4	4.6	3.8	6.4	7.6	4.8
りんご	21.2	20.6	22.4	21.4	21.2	21.4	21.3	1.6	1.5
その他	64.1	54.9	60.8	52.0	51.2	43.7	55.8	56.6	42.5
合 計	135.2	120.8	132.0	118.6	116.9	107.5	117.2	99.8	80.9

出典：畜産振興課調べ(各都道府県からの聞き取り)
注：各県が1月から12月に蜜源として利用した面積として把握しているものを集計。
なお、一部の県では調査の中止や再開があるため、数値に連続性がないことに留意。

蜂蜜生産量の上位10県 (令和5年)

(単位：トン、%)

区 分	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位	10位	計
	北海道	熊本	長野	広島	秋田	青森	和歌山	愛知	静岡	福岡	全国
生産量	380.7	244.6	184.0	180.0	165.6	138.0	129.8	111.0	91.0	88.2	2,636
比 率	14.4	9.3	7.0	6.8	6.3	5.2	4.9	4.2	3.5	3.3	100

出典：畜産振興課調べ(各都道府県からの聞き取り)

(3) 蜜源植物を拡大する取組

- 令和6年度養蜂事業から、ニセアカシアは周辺住民及び地域関係者の同意を得られた場合に限り、蜜源植物として植栽・管理の補助対象としたところ。
- 「福島県養蜂推進協議会」が福島県会津若松市にニセアカシアを48本植栽。
- 「広島未来のみつばち森づくり協議会」が広島県山県郡安芸太田町で植樹祭を催し、地域住民ら50人と共にヤマザクラ1,400本、キハダ600本の蜜源植物を植栽。
植樹祭の際には、参加者を対象に養蜂の知識・理解情勢を深める普及啓発も実施。

○福島県養蜂推進協議会

- 令和6年度養蜂等振興強化推進事業を活用。
- 本事業を活用して初めてニセアカシアを植栽。



写真1 ニセアカシアの植栽地



写真2 ニセアカシアの拡大写真

○広島未来のみつばち森づくり協議会

- 令和6年度養蜂等振興強化推進事業を活用。
- 本事業を初めて活用して植樹祭を企画。
- 植樹祭には、小学生から大人までが参加し、養蜂講座も同時開催。



写真3 植樹の様子



写真4 養蜂講座

(4) 令和7年度養蜂等振興強化推進事業の概要

【令和7年度予算概算決定額 219 (219) 百万円】

<対策のポイント>

養蜂振興のため、**蜜源植物の確保**や**植栽状況の実態把握**、**蜂群配置調整の適正化**や**ダニの防除手法**を中心とした飼養衛生管理技術の普及に向けた取組を支援します。また、花粉交配用昆虫の安定確保を図るため、**園芸産地と養蜂家の連携**や**在来種マルハナバチの利用拡大**、**健全な蜂群の供給**に向けた**技術導入**の取組を支援します。

<事業目標>

- 蜜源植物の植栽面積拡大や適正な蜂群配置調整、ダニ被害低減による蜂群数増加（21万5千群〔令和元年度〕→30万群〔令和11年度まで〕）
- セイウオオマルハナバチから在来種マルハナバチへの転換の加速化

<事業の内容>

1. 蜂群配置調整適正化支援

- ① 蜂群配置調整の適正化に向けた環境整備のため、**蜂群の位置情報や蜜源植物の植栽状況の実態把握**、**樹木を中心とした蜜源植物の植栽・管理**などの取組、**耕蜂連携による蜜源植物の定着化**に向けた実証を支援します。
- ② **適正な蜂群配置調整**の参考となる優良事例の調査・分析、蜜源植物の位置や植物の種別、蜂群の位置情報をはじめとする**関連データを蓄積・活用するための検討会の開催や地図データの作成**を支援します。また、飼育届に付帯する**蜜源・採蜜成績等をデジタルデータ化した上で、蜂群数、気象等との相関を分析**する取組を支援します。

2. 花粉交配用昆虫の安定確保支援

- ① 園芸産地において、花粉交配用蜜蜂を養蜂家と連携して安定的に確保する**協力プランの作成**や**蜜蜂の適切な管理技術**、**他の花粉交配用昆虫による代替技術の実証**等を支援します。また、特定外来生物であるセイウオオマルハナバチから**在来種マルハナバチへの転換実証**を支援します。
- ② 養蜂家による**花粉交配用蜜蜂群の供給体制を強化**するための蜂群の低温管理技術の導入や冬期間の管理技術の実証などの取組を支援します。

3. 飼養衛生管理技術向上支援

ダニの防除手法を中心とした飼養衛生管理、**蜜蜂への負荷の少ない輸送方法の検討**、**蜜蜂の飼養管理の高度化・省力化**のための技術の普及などの取組を支援します。

<事業イメージ>

養蜂等を取り巻く課題

- 蜜源植物の植栽面積が減少傾向で推移する中、蜜蜂の飼養戸数は趣味養蜂の普及もあって増加しており、一部では飼養者間での蜂群配置に関するトラブルも発生。
- 農薬や熊による被害を避けるよう蜂群の飼養場所に変更の必要が生じて、十分な蜜源を確保することが困難。
- 都道府県による適正な蜂群配置調整を求める声が高まる中、県等が蜜源植物の植栽の状況や蜂群の配置に関する詳細な情報を把握できる仕組みの整備が必要。
- 近年の天候不順等により花粉交配用蜜蜂の供給が不安定な傾向にあることから、園芸産地と養蜂家の連携等による花粉交配用蜜蜂の安定確保が必要。
- 施設トマト等の花粉交配に利用されているセイウオオマルハナバチは平成18年に特定外来生物に指定されており、平成29年には「セイウオオマルハナバチの代替種の利用方針」を定めており、在来種マルハナバチへの転換加速化が急務。
- ダニ被害軽減のため、ダニ駆除剤の適正使用等、飼養衛生管理の高度化が必要。
- 養蜂家の高齢化や人手不足などが進展する中で、省力化のための技術普及が必要。

養蜂等振興強化推進事業の実施による課題の解決

事業実施により目指す姿

- 蜂群配置調整の適正化による蜜源の有効利用
- 花粉交配用昆虫の安定確保による施設園芸の体制強化
- 養蜂家の所得増加と地域の活性化
- 蜜蜂の飼養衛生管理技術の向上等による養蜂経営の安定

<事業の流れ>



(5) 養蜂家と耕種農家の連携による蜜源植物の定着化の内容

○ 輪作体系へのレンゲの組み込みや、レンゲの早期すき込みを防止する実証試験を新たに支援（最長3年間）

1. 取組の概要

(1) 輪作

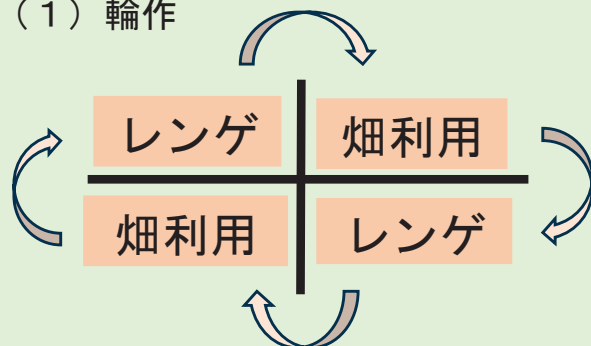


図1 レンゲ輪作の概念図

(2) 早期すき込み防止

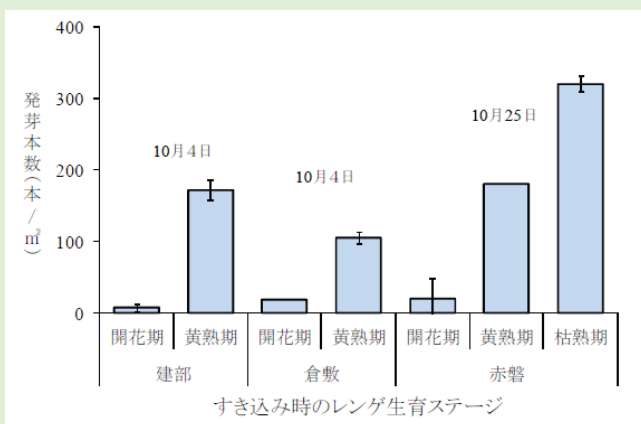


図2 すき込み時期と水稻収穫期のレンゲの発芽本数

資料：「レンゲを黄熟期にすき込むと自然発芽して翌年の緑肥として利用できる」（2014年岡山県農林水産総合センター農業研究所の普及資料）

2. 具体的メニュー

1 地区100万円（補助率：定額）



種子



土壌分析



リーフレット



現地検討会

3. 事業効果

養蜂家

×

耕種農家

=

環境に配慮した
農業への転換

- 蜜源地の確保
- レンゲ蜜の販売
- 種子代の削減

- 化学肥料の継続的な低減
- 生産コスト低減による経営安定

- 国産蜂蜜の増産
- 花粉交配用蜜蜂の安定供給



播種圃場と巣箱の設置場所を提供

レンゲ種子を提供（肥料利用）

